

畦地 梅太郎 AZECHI Umetaro

畦地梅太郎(1902-1999/宇和島市出身)は、当初画家を志し上京し、通信教育によって油彩画を学びましたが、内閣印刷局活版課に就職したことを機に版画の道を進みました。平塚運一、恩地孝四郎らに影響を受けて、戦前の創作版画運動に加わり、東京の都市風景や、郷里の愛媛の風景を題材にした版画を制作し、1930(昭和5)年には《小名木川附近》が第11回帝展に入選しました。1940(昭和10)年前後より、「山」という生涯のテーマと出会い、おおらかであたたかみのある独自の画風を確立します。戦後は、自身の姿を投影した「山男」をモチーフにしたシリーズや、前衛的・抽象的な木版作品も手がけました。

当館では、畦地を本県出身の重要作家の一人として位置づけ、初期から晩年期までの版画作品約300点を収蔵しています。

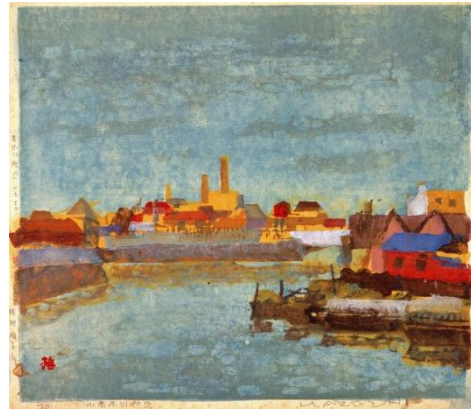


《風景》

1926(昭和元年)

鉛凸版/紙

11.2 × 15.8cm

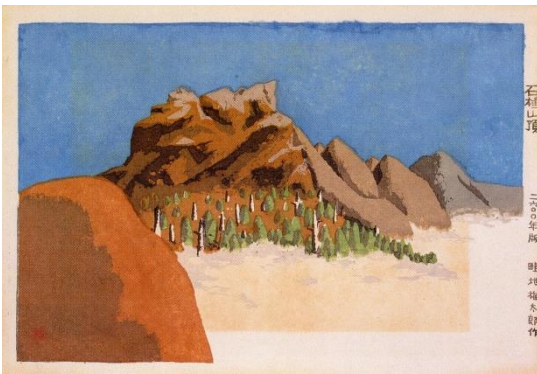


《小名木川附近》

1930(昭和5)年

多色木版/紙

37.5 × 43.0cm

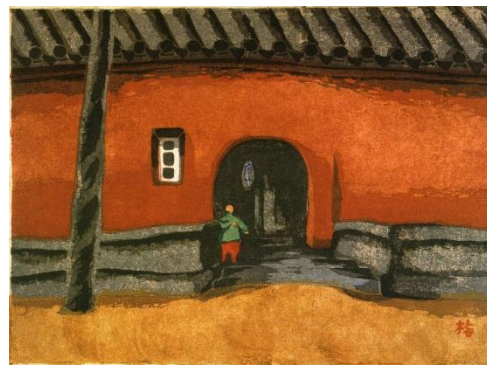


《石鎚山頂》『二六〇〇年版 山』より

1940(昭和15)年

多色木版/紙

30.5 × 45.5cm



《赤い壁》『満州』より

1944(昭和19)年

多色木版/紙

24.5 × 33.0cm

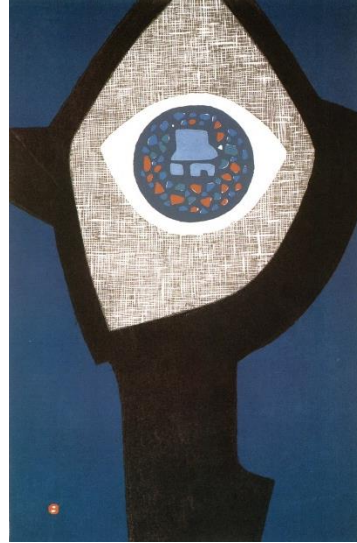


《白い像》

1958(昭和 33)年

多色木版／紙

70.0 × 44.9cm



《望郷》

1959(昭和 34)年

多色木版／紙

69.1 × 45.2cm